本太中だより

令和８年５月３０日

第３号

さいたま市立本太中学校
０４８（８８６）４３０５
http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp
E-mail　motobuto-j@saitama-city.ed.jp

笑顔と輝きを支える学校づくり

ウェルビーイングの視点から考える いじめを生まない関係づくり

校　長　田中　一秀

５月２０日（水）、本校校庭に生徒・教職員・保護者・地域の皆様の歓声が戻ってきました。年に一度の体育祭に向けて、生徒と教職員が準備や練習に励み、当日は保護者の皆様にも準備や後片付けにご協力をいただきました。また今年度も、地域の皆様からは暑さ対策のテントをお貸しいただきました。多くの方々の支えにより、実りある体育祭を開催できましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、本校では、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送り、笑顔で日々を過ごせることを何より大切にしています。仲間と関わる中で見せる生き生きとした表情や輝きは、学校にとってかけがえのない宝です。しかし、その輝きを曇らせるものの一つが「いじめ」です。いじめは心や尊厳を深く傷つけ、学校を不安な場所に変えてしまいます。

人は誰もが自由に生きたいと願う存在です。しかし、その自由が他者の自由を踏みにじるとき、いじめや争いが生まれます。哲学者・教育学者の苫野一徳氏は、「私たちが自由に平和に生きたいのであれば、まずはお互いの自由を認め合う約束をするほかにない。どんな生き方をしようが、どんな思想信条をもとうが、どんな言論をしようが、それが他者の自由を侵害しない限り、認め合う。そのような約束を相互にしない限り、私たちはいつまでも争いを続けることになってしまう。」＊と述べています。これは「自由の相互承認」という考え方であり、自分と同じように相手の自由も尊重することの大切さを示しています。

生徒たちはそれぞれ異なる考えや感じ方をもっています。その違いは学びを豊かにする一方で、すれ違いや衝突を生むこともあります。そのような場面で「自分も大切、相手も大切」という視点に立てるかどうかが、関係の質を大きく左右します。

いじめを防ぐためには、「してはいけない」と指導するだけでなく、互いを認め合う関係を日常の中で育てていくことが重要です。例えば、

・友だちの話に最後まで耳を傾ける
・違いを否定せず受け止める
・困っている人に気づき声をかける

こうした小さな行動の積み重ねが、いじめを生まない土台になります。

近年は「ウェルビーイング」という考え方が重視されています。一人ひとりが安心感やつながりの中で、自分らしく過ごせる状態のことです。本校でも、「学校は安心できる場所だ」「ここにいてよかった」と感じられる環境づくりに取り組んでいます。その中でこそ、生徒は本来の力を発揮し、笑顔と輝きを保ちながら成長していきます。

大人のまなざしや言葉は、子どもたちの心に大きな影響を与えます。ご家庭におかれましても、お子さまの様子や友だちとの関わりに関心を寄せ、「自分も相手も大切にする」という価値について、日常の会話の中で共有していただければ幸いです。

子どもたちの笑顔と輝きを守るために、学校は今後も家庭・地域と連携しながら取り組んでまいります。

＊武田青嗣・苫野一徳『伝授！哲学の極意 本質から考えるとはどういうことか』(2025 年)